

## 早禱（毎朝の祈り）

一同ひざまずき次、準備の黙禱の後に次の唱和を用いる。

司式者 主よ、我らの口を開きたまえ  
会衆 我ら主の誉れをあらわすべし  
司式者 神よ、すみやかに我らを救いたまえ  
会衆 主よ、とく、きたりて我らを助けたまえ

ここで一同立つ。

司式者 父と子と聖霊に栄光あれ  
会衆 始めにあり、今あり世々限りなくあるなり アーメン  
司式者 なんじら主をほめまつれ  
会衆 主の御名をほめまつるべし

ここで次の詩を歌いまたは唱える。陸誕節、顕現日とその後の七日間、復活節、聖霊陸臨節、三位一体主日、その他の祝日には第八節以下を省いてもよい。復活日とその後の六日間は、この詩にかえて復活の頌を用いる。

### 詩九十五篇

父と子と聖霊に 栄光あれ  
始めにあり、今あり 世々限りなくあるなり アーメン

### 詩篇

ここで、定められた詩篇を歌いまたは唱える。但し詩九十五篇は重ねても用いない。一篇終わるごとに栄光の頌を用いる。

### 第一日課

日課を朗読する前に、「——（書）第一章―節より」と言い、読み終われば、「第一日課終わる」と言う。第二日課のときもこれにならう。第一日課の後に次の頌を歌いまたは唱える。但し復活日から三位一体主日までを除く平日には万物の頌を用いてもよい。陸臨

節、大齋前節、大齋節の主日、齋日、平日および聖職按手節（聖靈  
陸臨節を除く）には万物の頌を用いる。

### 賛美の頌

我ら神をほめまつり　　神を主なりと信任す  
全地はとこしえの父を　　あがめたてまつる  
御使いと天のうちの、ちからあるもの　みな主にむかいて歌い  
ケルビムとセラピム　　絶え間なく歌いてわく  
聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな　万軍の神なる主  
主の栄光あるみいつ　　天地に満つと  
栄光ある使徒のくみ　　みな主をほめまつる  
誉れある預言者のむれ　　みな主をほめまつる  
白き衣の殉教者のたい　　みな主をほめまつる  
天下の聖公会　　みな主を信任す  
そは、はなり無き　みいつある父  
まことなるひとりの御子　なぐさめ主なる聖霊なり  
キリストよ　主は栄光のの王なり  
主は父の　とこしえにいます御子なり  
主は人を救わんため、人となりたもうとき　　おとめの胎をも厭いたまわざりき  
主は死の苦しみに勝ちて　　すべての信徒のため天国の門を開きたまいぬ  
主は父の栄光のうちにて　　神の右に座したまえり  
またふたたびきたりて　　我らをさばきたもうことを信ず  
ゆえに尊き血にて贖いたまいししもべを　　助けたまわんことを祈りたてまつ  
る  
我らを主に聖徒につらねて　　限りなき栄光を得させたまえ  
主よ、主の民をすくい　　主のゆずりをさきわいたまえ  
彼らをやしないで　とこしえに、いだきたすけたまえ  
わらら日々に　　主をあがめまつる  
我ら世々かぎりなく　　御名をほめまつる  
主よ、きょう我らをまもりて　　罪を犯すことなからしめたまえ  
主よ、我らをあわれみたまえ　　我らをあわれみたまえ  
主よ、我らは主にたよれり　　我らをあわれみたまえ  
主よ、我らは主にたよれり　　我に限りなく恥なからしめたまえ

### 万物の頌

平日には三節から二十五節までを省いてもよい。

主の万物よ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ  
主の御使いよ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ

もろもろの天よ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ

空の上の水よ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ

主の万軍よ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ

日と月よ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ

空の星よ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ

雨と露よ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ

風よ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ

火と熱よ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ

冬と夏よ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ

露と霜よ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ

あられと寒さよ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ

氷と雪よ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ

夜と昼よ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ

明かきと暗きよ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ

いならずまと雲よ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ

地よ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ

山と岡よ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ

地に生うるすべての草木よ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ

泉よ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ

海と川よ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ

鯨とすべて水に泳ぐものよ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ

空を飛ぶ鳥よ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ

野獣と家畜よ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ

世の人よ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ

イスラエルよ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ

主の祭司よ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ

主のしもべよ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ

義人と魂よ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ

心きよく、へりくだる者よ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ

ハナニヤとザリヤとミサエルよ、主を祝い 世々歌いあがめまつれ

世々歌いあがめまつれ

父と子と聖霊を祝い  
世々歌いあがめまつれ  
天の大きにまします主を祝い  
世々歌いあがめまつれ

## 第二日課

第二日課の後に次に頌を歌いまたは唱える。この頌の前にその日にふさわしい聖歌を用いることができる。ザカリヤの頌にかえて詩百篇を用いてもよい。

## ザカリヤの頌

ほむべきかなしゆイスラエルの神　その民をかえりみて、あがないをなし  
我らのために救いのつのを　そのしもべダビデの家に立てたまえり  
これぞ、いにしより　聖預言者の口をもて言いたまいしごとく  
我らをあだより、すべて我らを憎む者の手より　取りいだしたもう救いなる  
我らの先祖にあわれみをたれて　その聖なる契約をおぼし  
我らの先祖アブラハムに　立てたまひし御誓いを忘れずして  
我らをあだの手より救い　生涯主のみまえに  
聖と義とをもて　おそれなく仕えしめたもうなり  
幼な子よ、なんじはいと高き者の預言者となえられん　これ主の御前にさき  
だち行きて、その道をそなえ　知らしむればなり  
主の民に罪のゆるしによる救いを　このあわれみによりて、あしたの  
これ我らの神の深きあわれみによるなり　光うえよりのぞみ  
暗きと死の陰に座する者をてらし　我らの足を平和の道にみちびかん  
父と子と聖霊に　栄光あれ  
始めにあり、今あり　世々限りなくあるなり　アーメン  
ここで聖餐式にうつることができる。またその前に嘆願を用いてもよい。

## 使徒信経

我は天地の造り主・全能の父なる神を信ず  
我はそのひとり子、我らの主イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、  
おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのとき苦しみを受け、十字架につけ  
られ、死にて葬られ、よみにくだり、三日目に死にし者のうちよりよみがえり、

天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこよりきたりて生ける人と死ねる人をさばきたまわん

我らは聖霊を信ず。または聖公会、聖徒の交わり、罪の赦し、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ずアーメン

一同ひざまずく。以下、恵みのための祈りまでを歌ってもよい。

司式者 主よ、あわれみたまえ

会衆 キリストよ、あわれみたまえ

司式者 主よ、あわれみたまえ

次に一同、主の祈りを唱える

天にします我らの父よ、願わくは御名を聖となさしめたまえ。御国たまえ。御心を天におけるごとく、地にも行わしめたまえ。我らの日も与えたまえ。我らに罪を犯すものを我ら赦すごとく、我らの罪え。我らを試みにあわせず、悪より救いいだしたまえアーメン

ここで司式者は立つ。

司式者 主よ、あわれみを我らに現わしたまえ

会衆 主の救いをあたえたまえ

司式者 主よ、正しくをもつて主の仕えびとを装いたまえ

会衆 主の聖徒を喜ばせたまえ

司式者 主よ、主の民を救いたまえ

会衆 主のゆずりを祝したまえ

司式者 主よ、この世を安らかに治めたまえ

会衆 地のはてまで戦いをやめしめたまえ

司式者 神よ、我らの心をきよめたまえ

会衆 我らより聖霊を取りたもうなかれ

司式者 主なんじらとともにいますことを

会衆 主なんじの霊とともにいますことを

司式者 我ら祈るべし

## 特禱

ここで当日の特禱を用い、つづいて次の二つの特禱を用いる。

## 平安のため

親しみを好み、平安をあたえたもう神よ、主を知るはこれ限りなき命なり、主に  
つこうるは全き自由なり。願わくは常にしもべらを守り、すべて攻めきたる敵を  
防ぎ、いかなる強きあだをも恐れず、堅く主にたよりて安んずることを得させた  
まえ。大能の主イエス・キリストによりてこいねがい奉る。アーメン

## 恵みのため

天のちち、かぎりなく生ける全能の神よ、我らを今朝まで安全に至らせたまえ  
ごとく、今日も大いなる力をもって守りたまえ。願わくは罪に陥らず、危うきこ  
ともあわず、常に主の導きをこうむり正しき行ないをなすことを得させたまえ。  
主イエス・キリストによりてこいねがい奉る。アーメン

ここで司式者はひざまずき、諸祈祷、嘆願、感謝を用いてもよい。  
終わりに次のように言う。

願わくは主イエス・キリストの恵み、神のいつくしみ、聖霊のまじわり、我らと  
ともに限りなくあらんことを。アーメン